

60年前の名古屋市東山と名古屋城の蜻蛉追憶

高崎 保郎

〒465-0026 愛知県名古屋市名東区藤森一丁目14

Reminiscence of Dragonflies of Nagoya Higashiyama and Nagoya Castle, Nagoya, Aichi Prefecture, Japan, sixty years ago

Yasuo TAKASAKI

14, Fujimoriittyyome, Meito-ku, Nagoya, Aichi, 465-0026, Japan

要旨

戦前から終戦直後の時代名古屋市街地東端の千種区東山から昭和区八事、瑞穂区石川橋方面にかけては、名古屋在住の戦前・戦中派昆虫同好者にとっては身近な好採集地の一つであった。

また矢田川をはさんだ尾張平野田園地帯の面影を残した北西方面地域に接した段丘北西端に立地する名古屋城周辺も比較的自然状態を残していた。

1940年代末から50年代初頭に中学、高校時代を過ごした著者にとってもこれらの場所は手頃なフィールドであった。今では東山や名古屋城で全く見る事のなくなった種を含む1947年頃から1958年頃を主とした当時の蜻蛉相の記録を後世の為ここに残すものである。

I. 名古屋市千種区東山公園とその周辺

東山動植物園は市街地東方の低い丘陵地形に昭和12年に完成開園した。当時その周辺の大部分は林や耕地、裸地であった様で、さらにその東方は農村地帯である愛知県猪高村に続いていた。この様な光景はまだ1950年代の初頭まで残っていた。

1. 調査期間

1951年を中心にその前後頻繁に通い50年代後半も時々訪れた。

2. 調査範囲 (図1, 図2)

当時昆虫同好者が一般的に「東山」と称していた区域は、東西は西端の現名古屋大学構内かその北側又は南側辺りを通り動物園外周南側を經由して、公園所管の植物園の東の樹林地帯を巡り東端の富士見台と称した崖に達し、崖下東方の猪高村西端部を含む地域位迄、南北は北は概ね現広小路線以南、南は当時昭和区(現在は天白区)

との境辺りから猪高村南西端の現名東区藤巻町から旧天白村現天白区植田山辺りの線で囲まれた区域を指すものと理解できる。

従って「東山」「千種区東山」又は「東山公園」と表記された古いラベルや記録の内容は現住居表示では、千種区にじが丘、同植園町、同藤巻町、天白区天白町八事、同植田山等々広範な地域を含むことになる。

今となっては個体毎の採集地点を、現住居表示で克明に示すことは困難である。いずれにしても現在は名古屋市の範囲に入る地域で、現在の千種区、名東区、天白区の東部低丘陵地形に該当することは明確であるので、今回の目録は当時のラベル表示の通り記すこととする。

なお、当時所謂東山と同様な地形、植生の自然環境下にあった、北方の現千種区自由ヶ丘辺り迄と、南方の現天白区天白町八事に所在する旧天白溪辺り迄は、東山同様当時の調査データがあるので別項を起し説明のうえ目録に加えることとした。

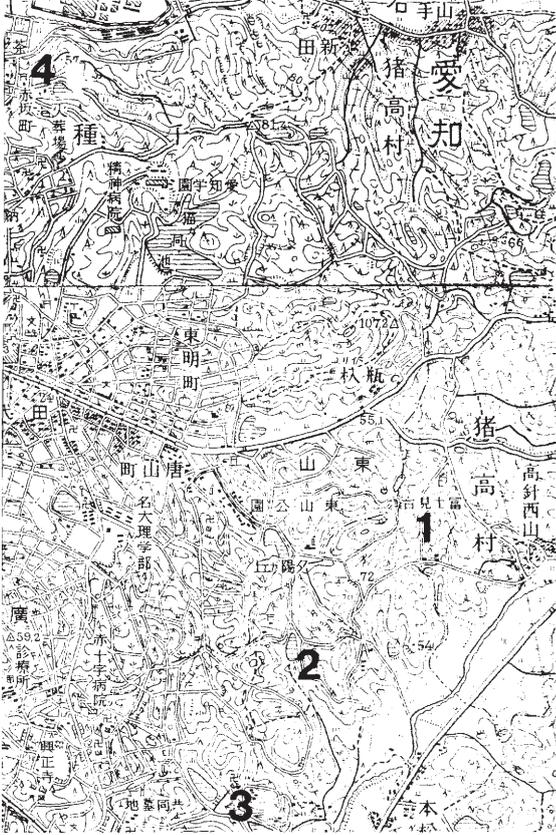


図1. 東山公園とその周辺 (1)
 国土地理院5万分の1地図
 (昭和27年発行名古屋北部及び昭和26年発行同南部)
 1. ベッコウトンボのため池群 2. 桜池 3. 天白溪 4. マダラナニワトンボ産地

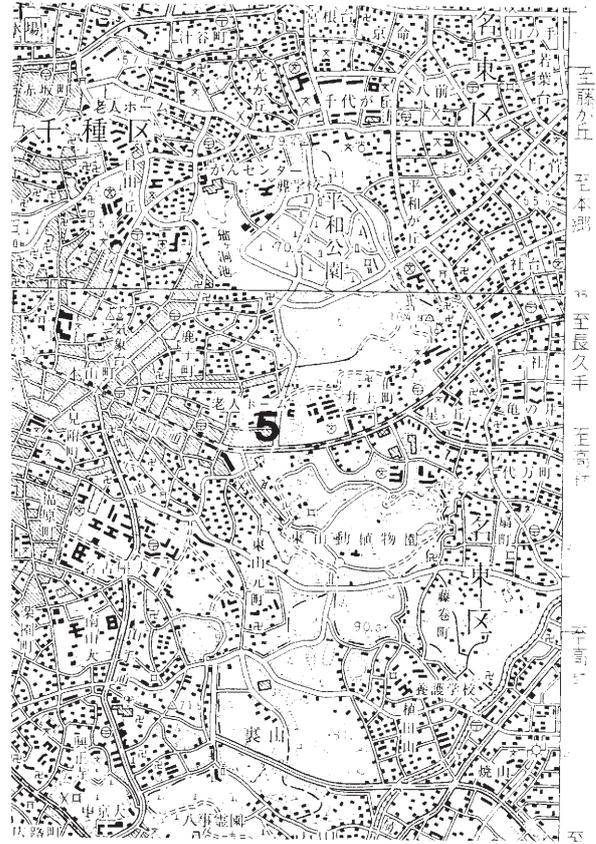


図2. 東山公園とその周辺 (2)
 国土地理院5万分の1地図
 (平成11年発行名古屋北部及び平成13年発行同南部)
 5. 新池

3. 1950年代前後の状況

当時は市電の東山公園終点で降り、動物園本園北側の舗装道路を東に進み植物園又はその東の樹林帯に至るか、本山又は唐山電停で降り、現名大付近を通り動物園の南に達し、現天白区天白町八事、同植田山、現名東区藤巻町辺りを経由して公園東端富士見台の崖と猪高村の境辺りに達すると言うコースが普通であった。

本山電停の交差点では猫洞通を流れる山崎川上流は当時は開渠でハグロトンボが群飛していた。四谷通東の名大キャンパスから動物園迄は耕地、林が連続する低丘陵地帯で湿地もありハッチョウトンボやネアカヨシヤンマを産した。現在四谷通西側の名大敷地南西端宮東町に所在する名古屋大学博物館付属自然園で見られるベニイトトンボとハッチョウトンボはこの時代の末裔の可能性も捨てきれない。その由来を聞き取りにより精査する必要がある。

植物園内の大きな奥池は、今は岸も切り立ちコイも存在し余り良い状態ではないが、かつてはオツネイトンボを始め同池と周囲の水域にトンボ類が多かった。

なお、奥池の東斜面に後年造成された湿地で現在見られるハッチョウトンボは、造成時ボランティアとして参加した県庁時代の同僚の言によると他所から移植したものとのである。移植元は聞いても明かさなかった。真の東山公園産ではなく国内移入種であることに留意すべきである。

植物園東のアカマツを主としコナラ、アベマキ等で構成される公園所管の雑木林内ではカトリヤンマが沢山いた。林内の何か所かの防火水槽からはタカネトンボ、ヤブヤンマが発生しこれは現在でも見られるであろう。林縁路上ではトラフトンボが多数飛翔していた。植物園から東端富士見台の崖に至る道沿いやそこから植田方面に向かう地帯にはギフチョウを多産したが1959年が最後の記録となった。今では名古屋市に最も近いギフチョウの産地は長久手市三ヶ峰丘陵県芸大、県農総試の線迄後退した。この辺りも開発が激しくいずれ東山と同様な状態となり、豊田市、瀬戸市地内まで行かなければ見ることができない日が来るであろう。

植物園正門前から南の天白町八事方面へ向かう道沿いに大きな桜池があってその周囲には小池、湿地が点在し、トウキョウサンショウウオ（現在、名古屋市の個体

群はカスミサンショウウオに分類されている）やヒメヒカゲを産した。この辺りではコバネアオイトトンボを始めトンボ類が多産したが、桜池とその周辺は1957年頃以降ゴルフ練習場と駐車場に一変した（図3、4）。

特筆すべきは富士見台の崖直下の猪高村の果樹畠などの耕地に3個存在したため池から多数発生したベッコウトンボである。分散した成虫はこの崖の辺りでも見られた。このため池にはオグマサナエ、フタスジサナエや現在は分布を拡げ普通になったが当時は珍しかったヨツボシトンボも多産した。ベッコウトンボは植物園内奥池からも発生していた。

この頃は平地の緩流にヤゴが棲むキイロサナエはどこにでも多く、丘陵の細流に棲むことが多いヤマサナエはむしろ少なく東山もそうであった。その後開発による環境悪化の著しい平地の水域に拠るキイロサナエの減少は激しく、平地より開発の影響がより少ない丘陵に産するヤマサナエの方を相対的に多く見るようになり混生地での形勢が逆転し、キイロサナエは市や県の絶滅危惧種になるに至った。

東山にはホンサナエも普通であったが今やこれらのサナエトンボ類は全く見ることがなくなった。

ベッコウトンボのため池は、1955年の猪高村名古屋市併合と区画整理の開始により、いずれも1958年までに潰廃され、多数のトンボが消滅した。その跡は名東区植園町の住宅街となっている。要するに東方へ名古屋市域の宅地開発が東山とその周辺地区の昆虫類衰亡の主因である（図5、6）。

4. 若干の東山近傍の記録の追加

名古屋市東部の低丘陵地形地帯の大部分は、1950年代迄は東山と同じく耕地、二次林、裸地が主体で東山地区と一体の環境であった。東山近傍のそれらの地帯の記録を補足する。記録の多くは千種区本山に在住した故山本悠紀夫氏による信頼性あるものである。

(1) 千種区自由ヶ丘、平和公園猫ヶ洞池方面から本山交差点へ

現在は護岸釣堀化し湿地も失われ悪環境化した猫ヶ洞池は、往時はニホンカワトンボ、ハッチョウトンボ、ミヤマアカネ、オオキトンボ等を産した。その北方の現千種区自由ヶ丘、茶屋ヶ坂辺りのアカマツを主体とした二



図3. 桜池（1952年2月17日）



図4. 桜池とその周辺を埋め立てたゴルフ練習場と駐車場（2014年）



図5. 富士見台の崖. 左上端に現1万歩コースがある. 右崖下が当時猪高村, 現名東区植園町 (1952年2月17日)



図6. 崖下に広がる名東区の市街地 (2014年)

次林に所在する池には、オグマサナエ、フタスジサナエ、タバサナエ等のサナエトンボ類やマイコアカネ、マダラナニワトンボ等を産した。マダラナニワトンボはこの辺りには広く産しそれ程珍しい存在ではなかった。現自由ヶ丘小学校から本山交差点方面にかけては湿地も存在しモートンイトトンボを産した。

(2) 天白区天白町八事天白溪

東山から南の地続きの八事方面も樹林に覆われた好採集地で、その一つ今は素っ気ない公園と人工化された公園池だけが残り周りは全て住宅地となっている天白溪は名の通り池や湿地を有する谷間で、ヒメヒカゲを求めるチョウ研究者を始め多くの昆虫関係者が訪れた所である。ニホンカワトンボ、フタスジサナエ、タバサナエ等を産した。

これらの東山周辺地区は1950年代は東山と同様の環境であり、名古屋市東部丘陵地帯の記録として同時に扱った方が、同地帯の当時の実態を示すのに望ましいと思料されるので東山の目録に加えることとした。

なお、東山地区からさらに南方に続く天白区、緑区の東部低丘陵地帯の蜻蛉相については、清水典之・鶴殿清文・鶴殿茂(1976)名古屋市東南部の蜻蛉相、佳香蝶、28(105) 5-10等の文献に当たられたい。天白区島田緑地の一面は当時の環境を今に伝える保存地区であり、ハッチョウトンボが残存する。

5. まとめと近年の記録若干

1950年代所謂東山とその近傍で記録された種は63種で、大戦前後から2013年までに名古屋市で記録された86種の約73%に当たる。この63種のうち同地域で絶滅又は絶滅状態(推定絶滅)となった貴重種は次の15種程でその殆どは市のレッドリスト該当種である。

コバネアオイトトンボ(図7)、ニホンカワトンボ、アオハダトンボ、オオイトトンボ、モートンイトトンボ、タバサナエ、オグマサナエ、フタスジサナエ、ホンサナエ(図8)、キヒロサナエ、マダラナニワトンボ、ミヤマアカネ、オオキトンボ(図9)、ハッチョウトンボ、ベッコウトンボ(図10)等である。

セスジイトトンボ、ウスバキトンボ、ハラビロトンボはリストにはあるが余りにも普通であるためか1950年代の標本や日誌記録を見つけることができなかつた。これ

らの種については目録備考欄にリストと付記してある。また、当時のリスト(高崎, 1952)にあるベニイトトンボとキヒロヤマトンボは伝聞によるもので裏付けデータが無いので削除する。

1950年代から1960年代にかけては知られていなかったが、その後1970年代から現在に至る迄の間に新たに確認された種を参考迄に次に掲げる。飛来偶産種は除く。

ア. ベニイトトンボ 千種区不老町鏡池, 10-VIII-1973, 1♂清水典之:千種区星ヶ丘山手新池, 10-VII-2013, 3♂高崎

イ. ムスジイトトンボ 千種区四ツ谷通桃巖寺, 27-X-1970, 1♂山本悠紀夫:千種区星ヶ丘山手新池, 13-VII-2008, 1♀高崎

ウ. アオモンイトトンボ 千種区猫ヶ洞池, 24-X-1970, 1♂1♀山本悠紀夫:千種区星ヶ丘山手新池, 13-VII-2008, 2♂1♀高崎

エ. エゾトンボ 八事(興正寺と推定される), 12-VII-1974, 1♀阿江茂樹:千種区田代町(平和公園南部), 18-IX-2010, 1♀安藤泰樹

星ヶ丘山手に所在する新池は、かつては人工的な誰かが素通りする池であったが、後年北側に草地や樹林が発達するに及んで自然環境が改善されスイレンに占拠され問題はあるものの水生植物に富み、観察地、池干外来種駆除対象地として近年俄にクローズアップされて来た。いずれからかベニイトトンボも飛来定着しムスジイトトンボも産し、新しい東山地区のビオトープとしての役割を果たしている。

6. 目録(表1)

今回の記述に当り改めて当時の標本と日誌を見直し既発表リストと付け合わせた。目録の構成は次による。

ア. 標本が現存する。

イ. 標本は現存しないが、日誌に明確に採集目撃の記録がある。

ウ. 当地方の蜻蛉研究の先達山本悠紀夫氏による「愛知県の昆虫(上)1990」に収録された記録と他に若干のいずれも信頼性のある記録を追加。

エ. 既リスト種のア及びイについてはそのデータを記した。

オ. 備考欄に採集者名を記したものの以外は全て著者によ

る採集目撃記録である。

カ. 5に掲げた近年の記録は含まれていない。

キ. 蜻蛉は標準和名だけで種の特定は確実であるので学名を付さない。



図7. コバネアオイトトンボ上♂下♀, 東山, 1951.10.6採



図9. オオキトンボ♀, 東山, 1950.7.9採



図8. ホンサナエ♂, 東山, 1952.4.28採



図10. ベッコウトンボ♀, 東山, 1951.5.30採

表1. 東山とその周辺の日録

科	種	個体数等	年月日	場所	備考
アオイトトンボ	オツネイトンボ	3♂	14-IV-1951	東山	
		2♂ 1♀	28-IV-1952	東山	
		1♀	9-IV-1953	東山	
	ホソミオツネイトンボ	1♂ 1♀	16-III-1951	東山	
		1♀	14-IV-1951	東山	
		1♂ 1♀	28-IV-1952	東山	
		1♂	9-IV-1953	東山	
	アオイトトンボ	1♂	25-VIII-1951	東山	
		1♂ 1♀	6-X-1951	東山	
		1♂	27-X-1954	東山	
	オオアオイトトンボ	11♂ 1♀	25-VIII-1951	東山	
		5♂ 3♀	6-X-1951	東山	
		1♂ 1♀	17-VIII-1953	東山	
		1♂	14-X-1956	東山公園	湯浅進
	コバネアオイトトンボ	2♂ 2♀	6-X-1951	東山	
カワトンボ	ニホンカワトンボ	6♂ 7♀	17-V-1942	天白溪	山本悠紀夫
		5♂ 2♀	29-V-1950	千種区東山	山本悠紀夫
		1♂ 2♀	28-IV-1952	天白溪	
	アオハダトンボ	3♂ 1♀	7-VI-1952	千種区東山公園	山本悠紀夫
	ハグロトンボ	1♀	17-VIII-1953	東山	
モノサシトンボ	モノサシトンボ	1♂ 1♀	28-V-1951	東山	
		1♀	25-VIII-1951	東山	
		1♀	14-VIII-1954	東山	
		1♂	9-VIII-1957	東山	葛谷健
イトトンボ	キイトトンボ	1♂	18-VII-1951	東山	
		2♂	25-VIII-1951	東山	
		1♂	14-VIII-1954	東山	
	クロイトトンボ	1♂	14-VIII-1954	東山	
	セスジイトトンボ			東山	リスト
	オオイトトンボ	1♂	30-V-1951	東山	
		2♂ 1♀	26-VIII-1951	東山	
		1♂	24-V-1953	東山	
	モートンイトトンボ	1♂ 1♀	12-VI-1954	千種区本山	
	ホソミイトトンボ	1♂	16-VIII-1950	東山	
		1♂	14-IV-1951	東山	
	アジアイトトンボ	1♀	19-V-1951	東山	千田忠美
		1♀	30-V-1951	東山	
1♂		26-VIII-1951	東山		
ヤンマ	サラサヤンマ	1♂	5-VI-1951	東山桜池	吉川照男
	コシボソヤンマ	1♂	14-VIII-1954	東山	
	ネアカヨシヤンマ	1♀	9-VII-1950	東山	
		1♂	28-VII-1951	東山	
	カトリヤンマ	1♂	25-VIII-1951	東山	
		1♂	17-VIII-1953	東山	
マルタンヤンマ	目撃	17-VIII-1953	東山電停		

科	種	個体数等	年月日	場所	備考	
ヤンマ	ヤブヤンマ	1♀	30-V-1954	東山	日付は飼育羽化日	
		1♂	9-VI-1954	東山	同上	
		1♀	12-VI-1954	東山	同上	
		1♂	13-VI-1956	東山	同上	
		1♀	30-V-1958	東山	同上	
		1♀	12-VI-1958	東山	同上	
	ギンヤンマ	目撃	13-V-1951	東山		
	クロスジギンヤンマ	1♂	13-V-1951	東山		
サナエトンボ	ウチワヤンマ	1♀	30-V-1954	東山		
	コオニヤンマ	目撃	28-VII-1951	東山桜池		
		3♂ 1♀	20-VIII-1954	千種区本山	山本悠紀夫	
	オナガサナエ	1♂	6-VI-1946	千種区猫ヶ洞	山本悠紀夫	
		1♂	3-VII-1945	天白区天白溪	山本悠紀夫	
	タバサナエ	1♀	13-IV-1954	茶屋ヶ坂		
		採集	9-V-1957	天白区天白溪	成瀬善一郎	
	オグマサナエ	1♀	13-V-1951	東山		
		1♀	19-V-1951	東山		
		3♂ 1♀	28-IV-1952	東山		
		1♀	12-IV-1956	東山		
		3♂	6-V-1956	東山		
	フタスジサナエ	2♂ 3♀	22-IV-1951	東山		
		2♂	13-V-1951	東山		
		1♂	30-V-1951	東山		
		2♂ 4♀	28-IV-1952	東山		
		3♂	24-V-1953	東山		
		2♂ 1♀	30-V-1954	東山		
	ホンサナエ	1♂ 1♀	28-IV-1952	東山		
		1♀	24-V-1953	東山		
	キイロサナエ	1♂	30-V-1951	東山		
	ヤマサナエ	1♀	13-V-1951	東山		
	オニヤンマ	オニヤンマ	1♂	18-VII-1951	東山	
			1♀	28-VII-1951	東山	
	エゾトンボ	トラフトンボ	2♀	28-IV-1952	東山	
		タカネトンボ	1♂	14-VIII-1954	東山	
	ヤマトンボ	オオヤマトンボ	1♂	25-VIII-1951	東山	
コヤマトンボ		1♀	19-V-1951	東山	千田忠美	
トンボ	チョウトンボ	目撃	25-VIII-1951	東山		
	ナツアカネ	5♂ 3♀	25-VIII-1951	東山		
		1♀	14-VIII-1954	東山		
		1♂	27-X-1954	東山		
		1♂ 1♀	4-XII-1954	東山		
	マダラナニワトンボ	2♂	16-X-1949	千種区赤坂町	松井一郎	
		1♀	23-VIII-1941	千種区東山公園	山本悠紀夫	
		1♂	3-IX-1955	千種区鹿子殿	山本悠紀夫	
リスアカネ	1♂	25-VIII-1951	東山			

高崎（2015） 60年前の名古屋市東山と名古屋城の蜻蛉追憶

科	種	個体数等	年月日	場所	備考
トンボ	ノシメトンボ	2♂	6-X-1951	東山	
	アキアカネ	1♂	4-X II-1954	東山	
	コノシメトンボ	3♂ 1♀	29-VIII-1946	千種区猫ヶ洞	山本悠紀夫
		1♂	6-IX-1953	千種区東山	安藤尚
	ヒメアカネ	1♀	28-VII-1951	東山	
		1♂	25-VIII-1951	東山	
		1♂	6-X-1951	東山	
		1♀	17-VIII-1953	東山	
	マユタテアカネ	2♂ 1♀	28-VII-1951	東山	
		1♂ 1♀	25-VIII-1951	東山	
		2♂	6-X-1951	東山	
		1♀	27-X-1954	東山	
	マイコアカネ	3♂ 3♀	15-VIII-1958	千種区東山公園	山本悠紀夫
	ミヤマアカネ	1♂	5-X-1946	千種区東山公園	山本悠紀夫
	ネキトンボ	1♀	4-IX-1953	千種区東山	吉田信弘
	キトンボ	目撃	16-X-1951	東山植物園内	
		目撃	15-X-1953	東山植物園奥池	
	オオキトンボ	1♀	9-VII-1950	東山	
	コシアキトンボ	目撃	30-V-1951	東山	
	コフキトンボ	1♂	22-IV-1951	東山	
	ハッチョウトンボ	1♂ 1♀	10-VIII-1949	東山	
		1♂ 1♀	9-VII-1950	東山	
		1♂	30-V-1951	東山	
		1♀	12-VI-1954	茶屋ヶ坂	
	ショウジョウトンボ	1♀	30-V-1951	東山	
		1♂	9-VI-1951	東山	
	ウスバキトンボ			東山	リスト
	ハラビロトンボ			東山	リスト
	シオカラトンボ	1♀	30-V-1951	東山	
		1♀	25-VIII-1951	東山	
		1♀	22-IV-1951	東山	
	シオヤトンボ	2♂ 1♀	28-IV-1952	東山	
		1♀	30-V-1954	東山	
4♂		14-VIII-1954	東山		
オオシオカラトンボ	1♂ 1♀	13-V-1951	東山		
	1♂	30-V-1951	東山		
	1♂	30-V-1954	東山		
ヨツボシトンボ	4♂ 1♀	30-V-1951	東山		
	1♂	30-V-1954	東山		
ベッコウトンボ	4♂ 1♀	30-V-1951	東山		
	1♂	30-V-1954	東山		

II. 名古屋城とその周囲

1. 調査期間

1947年から53年迄を中心に、その後適宜訪れた。50年から52年にかけては愛知県立明和高等学校生物部の部活としても行った。その概要は「名古屋城及び周囲の動植物誌」(高崎, 2009)にまとめた。部誌「双葉」には各生物分野の調査記録がある。創刊号からの幾冊かは2013年明和高校に寄贈したので、同誌を確認されたい方は同校に当たられたい。

2. 調査範囲 (図11)

現在の名古屋城とその周辺は次の様に構成されている。西側と北側を水堀(御深井大堀)、南側と東側を空堀の石垣で囲まれた名古屋城本丸を要とした城郭が中心で

ある。その南は南外堀の土塁と堀と、その東に続き直角に北に折れた東外堀と堀に囲まれた現官庁街の三の丸郭内である。

この範囲内が市街地であって樹木や下草に比較的富む自然環境を残し生物調査の対象となり得る。本稿で対象とする名古屋城とその周囲とは以上の区域である。現在では北側水堀に接し植樹され人工池もある名城公園も続いている。

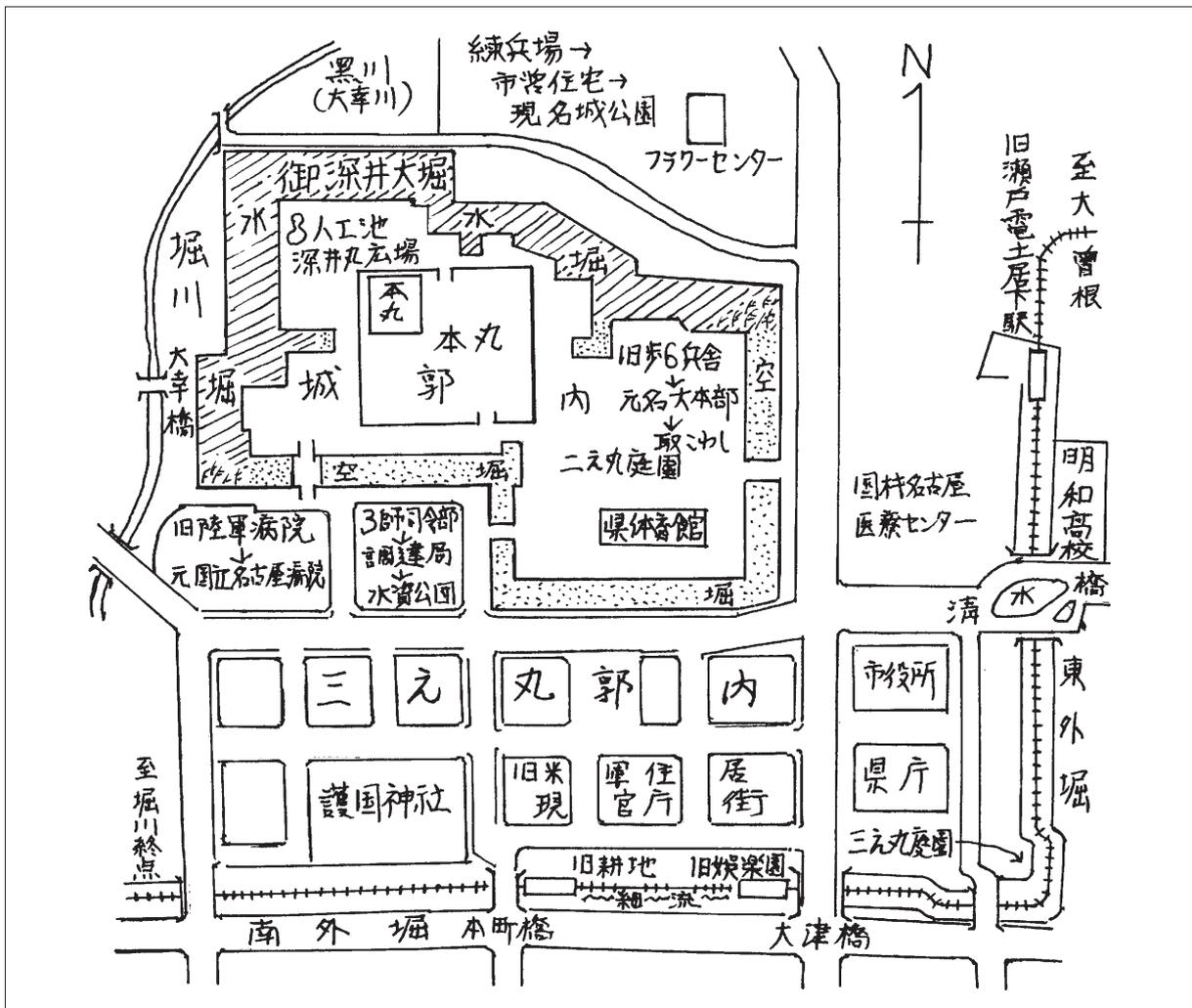


図11. 名古屋城とその周囲

3. 1950年代前後の状況

終戦直後の名古屋城郭内は整備の余裕がなく全域に亘り草本が生い茂り、マツ、カシ類、ナラ類、エノキ等を含む林も自然的な様相を呈していた。世間では荒廃と言うが我々には好ましい状態であった。

南外堀と東外堀に囲まれた三の丸郭内には、旧陸軍病院、旧第三師団司令部、護国神社、市役所、県庁等大きな建物も多かったが、それぞれ小規模ながら樹林も併い総じてこの境界は比較的緑が豊かであった。終点堀川駅を発する瀬戸電が南外堀、東外堀内を走っていたが、長大な土塁や堀底の小平地には樹木や草本が多かった。近年ヒメボタルの多産で有名になった南外堀内線路脇は当時は食糧確保のため畠になっており、小川が流れ魚やオタマジャクシも泳いでいた。さらにそれ以前昭和10年代初めには大津町駅北側線路脇に娯楽園という小動物園があったことを知る人は今や殆ど居ないであろう。線路沿いに自由に歩け特に本町橋東辺りの自然環境は良かったが、現在はクズマントで覆われ歩行困難である。

城壁西側と北側の水堀は面積7500m²と言われ給水は以前は僅かな自噴井戸水と庄内川から、現在は工業用水に依っているとのことである。かつては水堀の北東部は広範囲に抽水植物やハスに覆われていたが現在は縮小しヨシ群落となっている。浜島(1996)によれば、1960年代迄は堀には濃尾平野の池沼に一般的に見られる水生植物の殆どの種類が生育しており水面の大部分が水生植物で覆われていたが、その後諸原因による富栄養化により1969年から1982年の間に従来の水生植物の減少が目立ち富栄養化にも耐性を持つ帰化植物のオオカナダモ、オオフサモが一時繁茂するようになった。さらに1982年から1995年の間に沈水・浮遊植物の全てが絶滅し、抽水植物4種と浮遊植物1種が残存するのみとされる。この水生植物の衰亡は堀に拠るトンボ類の存続に甚大な打撃を与えた。

城正門前から東西に延びる空堀上端は全長に亘りカラタチの列植が続き、その根元にはウマノスズクサが生育し、ナミアゲハやジャコウアゲハが多かった。ジャコウアゲハは護国神社境内でもよく見られた。

城内や調達局(現水資公団)の樹液の出る木ではヒラタクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタ、カブトムシ類が得られた。

水堀周辺の水域か或いは当時でも比較的自然状態が残っていたであろう堀川上流の黒川(大幸川)辺りに由来するの城内にはハグロトンボが多かった。城へ遊びに来ていたつい先ごろ迄の仇敵進駐軍の兵隊がタモを貸せと言って本種を採ってくれたのも今では懐かしい思い出である。

いずれも市絶滅危惧種になった池沼性のオグマサナエ、フタスジサナエや緩流性のキイロサナエさえ発生源、飛来源は詳らかでないが城内で採集された。

水堀の北東端はヨシ、ハスを主体とする水生植物が広範囲に生育し沼沢状を呈し僅かではあるがアオヤンマを産し、後年市街地を1,500m隔たった自宅庭にも飛来した。トラフトンボも多産しこの頃は市街地上空でもしばしば目撃された。堀にはチョウトンボ、コフキトンボも多産した。

特筆すべきは堀に水生植物が豊富だった1970年代迄のイトトンボ類の多産である。セスジイトトンボ、ムスジイトトンボ、クロイトトンボが最も多かった。1950年6月にはベニイトトンボも発見した。本種は堀の石垣を上昇し城内でも散見された。モノサシトンボも産した。当時アオモンイトトンボは今日のように分布を広げておらず1954年になって初めて1♂を採集したのみで稀であった。成虫の休息や攝食の場となる土堤や空堀の草地に接した水堀の南西角にイトトンボ類は最も多かった。多種多数のイトトンボ類を対象に寄生するミズダニの研究も行った。

4. 近況とまとめ

水草の衰退と水質悪化の進行に伴い堀のトンボ類は激減した。多産したイトトンボ類やチョウトンボ、コフキトンボでさえ皆無となった。

2009年夏の市ため池調査関連で見られたのは、アジアイトトンボ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、オオヤマトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ等極く普通種だけと城内御深井丸に新設された小人工池から発生するリスアカネ(新記録)、マユタテアカネ、ショウジョウトンボ位であった。

2008年8月フラワープラザ上空で目撃したタカネトンボ1♂は新記録である。飛来種では2006年三の丸清水橋

でのムカシヤンマ1Ex.の驚くべき目撃記録がある(横地, 2013)。

1940年代末から1950年代を基準に若干の60年代70年代の記録を加えた名古屋城及びその周囲の記録種は34種である。これに近年の記録リスアカネ, タカネトンボ, ムカシヤンマの3種を加えると2013年現在37種となる。

34種のうち絶滅又は推定絶滅と目される種はハグロトンボ, ベニイトトンボ(図12), セスジイトトンボ, ムスジイトトンボ, ホソミイトトンボ, アオヤンマ, オグマサナエ(図13), フタスジサナエ(図14), キイロサナエ(図15), キトンボ, コフキトンボ他である。現存種は2009年調査確認種とタカネトンボを加えた10種余りに過ぎないであろう。秋季アカネ類の追加はあるかもしれない。

5. 目録 (表2)

今回の記述に当たり改めて当時の標本と日誌を見直し, 次の既発表リストと付け合わせた。

明和高校生物部誌双葉 (1) 1950と日本蜻蛉同好会東海支部Odonata (7) 1959にリストした種を基本とし,

ア. 標本が現存する。

イ. 標本は現存しないが, 日誌に明確に採集目撃記録がある。

ア及びイについてはそのデータを記した。リストに記載してあるがデータ不明の種についてはリストと付記した。

ウ. 備考欄に採集者名を記したものの以外は全て著者による採集目撃情報である。

エ. 1940年代末から1950年代を原則とするが, 必要に応じて一部の種には1960年代から1970年代の記録を追加した。近年の記録種3種は含まない。

オ. 上記2編のリストでオオイトトンボとしたものはムスジイトトンボの誤りである。堀は典型的な平地の水域であるのでオオイトトンボは産しなかった。当時トンボ関係者の間ではムスジイトトンボがこの地方に産すると言う認識がなく, 本種の存在が注目され始めたのは1960年代末になってからである。

引用及び参考文献

- 阿江茂樹. 1974. 名古屋・八事・東山付近のトンボ. 佳香蝶, 26(100): 99-100.
- 安藤 尚・山本悠紀夫・高崎保郎・相田正人. 1990. 愛知県のトンボ目. 愛知県の昆虫 (上). 9-78. 愛知県農地林務部自然保護課, 名古屋.
- 安藤泰樹. 2011. 名古屋市千種区のエゾトンボの記録. 佳香蝶, 63(247): 79.
- 浜島繁隆. 1996. 名古屋城外堀の水生植物の変遷. ため池の自然, (24): 4-5.
- 成瀬善一郎. 1957. 東山・天白付近採集記. NapiNews, (22): 2-3.
- 高崎保郎. 1950. 名城及びその周辺の蜻蛉と蝶. 双葉, (1): 7-8.
- 高崎保郎. 1952. 名古屋市東山産のトンボ. 中部日本自然科学教室会報, (5): 8-10.
- 高崎保郎. 1954. イトトンボに寄生するダニについて. 佳香蝶, 6(24): 7-10.
- 高崎保郎. 1959. 名古屋城の蜻蛉. Odonata, (7): 4-6.
- 高崎保郎. 1960. 愛知県のベニイトトンボ. 佳香蝶, 12(41): 24-25.
- 高崎保郎. 1968. 愛知県のムスジイトトンボ. 佳香蝶, 20(76): 101-104.
- 高崎保郎. 1969. アオヤンマを市街地で採る. 佳香蝶, 21(80): 203.
- 高崎保郎. 2009. 名古屋城及び周囲の動植物誌. ため池の自然, (47): 8-18.
- 高崎保郎. 2012. 愛知県のベニイトトンボ (第3報). ため池の自然, (52): 13-17.
- 滝田康一. 1994. 名古屋市東山公園付近のギフチョウ. 蝶研フィールド, 9(97): 16-17.
- 滝田康一. 1994. 名古屋市八事近郊のヒメヒカゲ. 蝶研フィールド, 9(98): 24-25.
- 横地鋭典. 2013. 名古屋市中区三の丸周辺の2006~2007年のチョウ等の記録. 佳香蝶, 65(255): 43-47.



図12. ベニイトトンボ♂, 名古屋城, 1959.7.13採



図14. フタスジサナエ♂, 名古屋城, 1949.4.29採



図13. オグマサナエ♀, 名古屋城, 1952.5.3採



図15. キイロサナエ♂, 名古屋城, 1949.5.15採

表2. 名古屋城とその周囲の目録

科	種	個体数等	年月日	場所	備考	
アオイトトンボ	オオアオイトトンボ	2♂	16-X-1951	名古屋城		
		1♂	2-VII-1953	名古屋城		
カワトンボ	ハグロトンボ	採集	27-VII-1947	名古屋城		
		目撃	15-VII-1947	中区丸の内一丁目		
モノサシトンボ	モノサシトンボ	1♀	12-IX-1951	名古屋城		
		目撃	22-VII-1951	名古屋城		
イトトンボ	ベニイトトンボ	2♂	22-VII-1951	名古屋城		
		2♂	9-VII-1959	名古屋城		
		4♂	13-VII-1959	名古屋城		
	クロイトトンボ	1♂	23-VIII-1951	名古屋城		
		5♂ 1♀	12-IX-1951	名古屋城		
	セスジイトトンボ	1♂	19-VIII-1950	名古屋城		
		3♂ 3♀	12-IX-1951	名古屋城		
	ムスジイトトンボ	4♂ 2♀	11-IX-1951	名古屋城		
	ホソミイトトンボ			名古屋城	リスト	
	アオモンイトトンボ	1♂	29-V-1954	名古屋城		
	アジアイトトンボ	1♂ 1♀	19-VII-1968	名古屋城		
	ヤンマ	アオヤンマ	目撃	5-VI-1958	名古屋城	
			1♂	18-VI-1978	名古屋城	安藤尚
			1♀	22-VI-1969	中区錦一丁目	
カトリヤンマ					リスト	
ヤブヤンマ		1♂	7-VI-1950	調達局		
ギンヤンマ		1E x	10-VII-1949	名古屋城		
		1♀	27-VIII-1951	名古屋城		
目撃		4-VI-1954	名古屋城			
クロスジギンヤンマ				リスト		
サナエトンボ	ウチワヤンマ	1♀	10-VII-1949	名古屋城		
		1♀	2-VII-1953	名古屋城		
	コオニヤンマ	1♂	30-V-1969	三の丸	城戸省二	
	オグマサナエ	1♀	3-V-1952	名古屋城		
	フタスジサナエ	1♂	29-IV-1949	名古屋城		
	キイロサナエ	1♂	15-V-1949	名古屋城		
エゾトンボ	トラフトンボ	1♂	29-IV-1950	名古屋城		
ヤマトンボ	オオヤマトンボ	1♀	2-VI-1951	明和高校		
		1♂	20-VI-1951	名古屋城		
トンボ	チョウトンボ	羽化殻1Ex	9-VII-1954	名古屋城堀		
	ナツアカネ	1♂ 1♀	16-X-1951	名古屋城		
		1♀	3-XI-1954	名古屋城		
	アキアカネ	2♂	16-X-1951	名古屋城		
		2♀	3-XI-1954	名古屋城		
		1♀	10-VII-1956	国立名古屋病院		
	マユタテアカネ			名古屋城	リスト	
	マイコアカネ	1♀	3-XI-1951	名古屋城		
		1♂	28-VIII-1951	調達局		
	キトンボ	1♂	7-X-1951	名古屋城	萩原真樹	

高崎（2015） 60年前の名古屋市東山と名古屋城の蜻蛉追憶

科	種	個体数等	年月日	場所	備考
トンボ	コシアキトンボ	採集	14-VII-1947	護国神社	
		採集	27-VII-1947	名古屋城	
	コフキトンボ	1♂	2-VI-1951	名古屋城	
		1♀	13-IX-1951	名古屋城	
		2♀	29-V-1954	名古屋城	
		1♂	5-VI-1958	名古屋城	
		2♂ 1♀	10-VI-1958	名古屋城	
	ショウジョウトンボ	1♂	10-VII-1949	名古屋城	
		1♀	24-VI-1951	名古屋城	
	シオカラトンボ			名古屋城	リスト
	シオヤトンボ			名古屋城	リスト
	オオシオカラトンボ	1♂	24-VI-1951	名古屋城	